

平成24年度における読書活動
推進施策について（報告）

平成25年6月

秋 田 県

目 次

I	はじめに	1
II	基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況	2
III	読書活動推進の施策	3
	第1 「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の情報発信の拠点」機能の強化	3
	(1) 図書資料の充実	3
	(2) 図書資料を活かす人材の確保と配置	5
	(3) 情報発信・効率的な利用システムの構築	6
	(4) 開放性	11
	第2 県民・民間団体・企業等による読書活動の推進	12
	(1) ボランティア活動を担う人材養成	12
	(2) ボランティア活動への支援	12
	(3) 活動団体等のネットワークづくり	13
	(4) 企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携	13
	第3 読書をしやすい環境づくり	15
	(1) 行政の取組	15
	(2) 学校等での取組	16
	(3) 家庭での取組	17
	(4) 職場での取組	17
	(5) 各民間団体等を通じた読書の普及・啓発	17
	第4 読書に関する県民運動の推進	19
	(1) 読書の楽しみ	19
	(2) 図書資料の確保・充実	20
	(3) いつでもどこでも読書	20
IV	読書活動を推進する体制	21
	(1) 「秋田県読書活動推進本部（仮称）」の設置	21
	(2) 県子ども読書支援センターにおける支援と活動の充実	21
	(3) 読書に関する調査の実施	21
	(4) 読書活動推進関係者との意見交換会の開催	21
	(5) 「読書活動推進県民会議（仮称）」の創設	22
	(6) 「子どもの読書活動推進計画」の策定への支援	22
V	「達成すべき目標数値」平成24年度実績	23

I はじめに

読書活動は、県民が人生を豊かに生きる上で大切なものであり、文化的で豊かな社会の構築にも寄与することから、本県では、「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」（以下「条例」という。）を制定し、平成22年4月1日から施行している。

また、平成23年3月に、条例に基づき、「秋田県読書活動推進基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、読書活動の推進に関する施策を総合的・計画的に進めてきている。

本報告は、条例第4条第2項に基づき、平成24年度に基本計画により実施した施策を議会に報告するため、その概要を取りまとめたものである。

○ 秋田県民の読書活動の推進に関する条例【抜粋】

（県民読書活動推進基本計画）

第四条 県は、県民の読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、県民の読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を策定するものとする。

2 県は、毎年、基本計画により実施した施策を議会に報告するものとする。

3 県は、必要があると認めるときは、基本計画を変更するものとする。

Ⅱ 基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況

読書は、人生を心豊かで潤いのあるものにしてくれる大変有意義な活動である。人は読書を通して、心を癒されたり、あるいは勇気づけられたりと、実に様々なことを体験している。本の中では、全く別の人生を生きることも可能となるほか、一冊の本との出会いが人生の転機となるという場合さえある。

こうした読書の優れた側面に照らしたとき、今後の社会をより豊かなものにしていくうえでは、誰もが生涯を通じて読書に親しむことのできる環境を作り上げ、また気運を盛り上げていくことが非常に重要となる。

県では、県民総ぐるみで読書活動を推進していくため、県民一人ひとりが子どものころから読書に親しむ習慣を身につけ、様々な場面で本に接する機会が確保されるよう各種施策を進めていくこととしているが、基本計画の冒頭において、その推進に係る4つの基本的方向を次のとおり定めている。

- 1 県民のライフステージや環境に応じて、読書に親しむ環境を整える。
- 2 勉学、仕事、余暇活動など生活の様々な場面で、気軽に読書することができる環境を整える。
- 3 読書活動を通して、地域のコミュニティの形成を図り、地域の絆を深める。
- 4 読書活動は習慣付けが重要であることから、特に子どもの読書活動を積極的に推進する。

平成24年度は、前年度に引き続き、4つの方向性に沿って、読書活動推進に係る施策・事業を、県を挙げて、展開してきた。また、事業の推進に当たっては、子どもから大人まで、広く県民に読書の良さを認識していただくとともに、日々の生活の中で誰でも気軽に読書に親しめるような環境づくりにつながるよう、市町村はもとより、ボランティア、民間団体・企業と十分に連携を図りながら実施してきたところである。

もとより、読書活動の推進については、成果が目に見えてあがる分野ではないが、読み聞かせボランティア等による学校や児童館などでの活動やそれを支援する「スキルアップ研修会」の開催など様々な取り組みを通じて、読書の良さ、大切さを県民にアピールできた1年であったと考えている。また、同研修会の参加者からは、研修内容への評価と合わせ研修会の継続実施を望む声が多数寄せられるなど、読書推進への機運も芽生えつつあると感じられる。

平成25年度以降も、引き続き、市町村、民間団体等と一体となって、多くの県民が読書に親しめるよう、基本計画に掲げる4つの柱に沿って、読書推進活動を着実に推進していくことが必要である。

Ⅲ 読書活動推進の施策

第1 「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の情報発信の拠点」 機能の強化

(1) 図書資料の充実

県民が読みたい本を選択できるようにするためには、図書館をはじめとした各施設の図書資料の充実、読みたい本にたどり着けるような環境づくりが必要となる。また、低年齢期には読書の習慣を身につけるきっかけとなる本と出会うことなどが大切であることから、以下のような取組を行った。

○ 公立図書館等における図書資料の充実促進を図るため、県図書館協会が実施している出前研修等各種研修会や市町村立図書館巡回訪問において、資料選定に関する助言・指導を行った。

- ・研修会開催数 28回
- ・訪問図書館数 80館

○ 幼稚園・保育所、児童館の図書室の図書資料の充実を図るため、県民に絵本などの寄贈を呼びかけ、それを希望する公共施設等に配布、再活用する「スギッチリサイクル文庫」事業を実施し、一般企業（25社）や小児科医院（31院）のほか、放課後児童クラブ等、合わせて116箇所にて絵本等の配布を行った。

なお、本の回収にあたっては、市町村立図書館に届けられた本を県立図書館の巡回車を使って回収する県・市町村立図書館の連携ルートを活用した。



「スギッチリサイクル文庫寄贈の様子」（スーパーセンターアマノ御所野店：秋田市）

(配布施設数)

市町村名	児童館・児童クラブ	小児科医院等	その他企業等	合計
秋田市	14	9	12	35
能代市	7	3	1	11
横手市		4		4
大館市	2		1	3
男鹿市	4	1	2	7
湯沢市	6		1	7
由利本荘市	8	2	4	14
潟上市		1		1
大仙市	7	6	2	15
北秋田市	3	2		5
にかほ市		2		2
小坂町	1		1	2
三種町	5			5
井川町			1	1
美郷町	2	1		3
東成瀬村	1			1
計	60	31	25	116

図書寄贈者数 127人(2,277冊)

- 低年齢期から本に親しむ環境を整えるため、市町村等がブックスタート*を進める場合の手立てとして、小学校低学年までを対象とする推薦図書等を紹介した「2013 マザーズ・タッチ文庫」ウェブブックを作成し、子育て支援課公式ウェブサイトに掲載した。また、高齢者の読書環境の充実を図るため、高齢者が読みやすい大活字本や音声図書資料(CD)を県立図書館に整備した。

※ ブックスタート：赤ちゃんとその保護者に絵本や子育てに関する情報を手渡し、絵本を通して心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動。

- ・大活字本購入点数 67冊
- ・視聴覚資料整備 529点

- 障害者の読書環境の充実については、県点字図書館における事業として点訳図書やデイジー図書*等の制作を行ったほか、こうした図書の貸し出しを通して視覚障害者への図書提供サービスの向上に努めた。

※ デイジー図書：CDにデジタル録音した図書。従来のカセットテープとは異なり、目次から読みたいページに飛んだり、繰り返し聞いても音質が悪くならない等の利点がある。

- ・ 図書制作 点訳図書：617冊、音訳図書：82巻、
デイジー図書：123枚
- ・ 図書貸し出し 点訳図書：3,061冊、音訳図書：8,876巻
デイジー図書：7,398枚
定期刊行物：10,406タイトル

(2) 図書資料を活かす人材の確保と配置

読書活動を推進するためには、図書資料というハード面での整備に加え、その図書資料を活用する上での人材面でのサポート体制も同時に整えていくことが重要となる。そのため、図書館の利用者に適切にサービスを提供できるよう専門的職員の能力向上に努めたほか、読み聞かせやおはなし会などのボランティア活動を行う人材の育成を図った。

- 「市町村子ども読書活動推進計画」策定に向けた助言をする中で、市町村立図書館への専門職員の配置について奨励したほか、高等学校については、各種研修の機会に、図書館便りの発行や図書紹介などの活動を図書委員会を中心に促進するよう指導した。

- ・ 市町村子ども読書活動推進基本計画 策定済市町村数 12市町村
策定作業中 6市町村

- 図書館関係職員の能力向上の機会を提供するため、県図書館協会の出前研修等の制度を活用し、市町村立図書館や学校図書館の運営に関する研修会を実施したほか、読み聞かせ等の研修会を開催し、ボランティア等、人材の育成を図った。また、「打って出る司書」の取組により、市町村立図書館等が、地域の実情に応じて、読書ボランティアに研修を行ったり、新たなボランティア参加者を募ったりできるようサポートした。

・研修実施回数 市町村 28回、学校図書館 2回

(内) 読み聞かせ等研修会開催回数 7回

- 学校図書館における図書資料の活用充実を図るため、学校図書館法施行令により、司書教諭を置かないことができる」とされている学級数11以下の小・中学校への司書教諭の活用について学校訪問時等において指導したほか、高校等においても同様の司書教諭の配置を進めた。そのほか、各学校において図書館利用の手引きとなる運営マニュアル等の整備、授業等での図書館の活用計画の策定、優れた実践事例の紹介等、学校図書館の利用促進について学校訪問時等において指導に努めた。

(3) 情報発信・効率的な利用システムの構築

各図書館等が互いに十分に連携し、読書に関する情報を効率的に発信するなど、利用者にとって利便性の高い施設となるよう、情報発信機能等の強化を図り図書館の利用増に努めた。

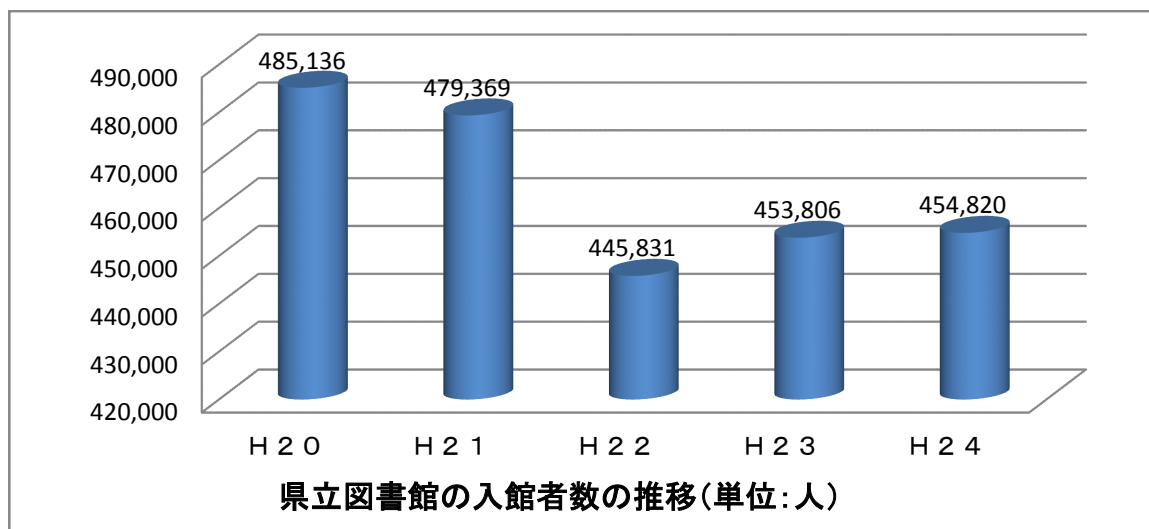
① 県立図書館の取組

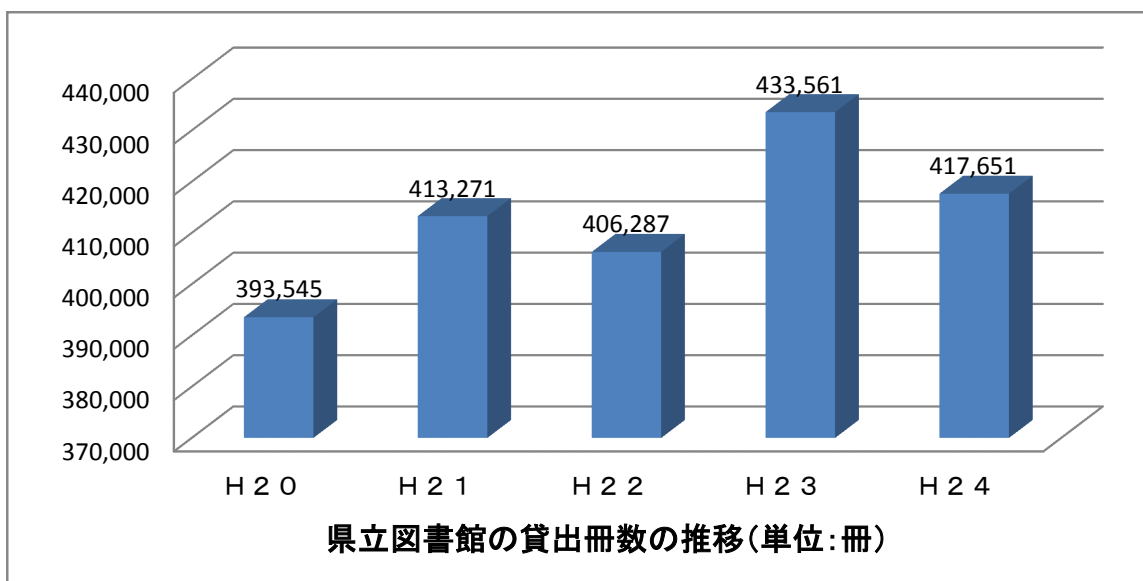
- 県立図書館の機能と図書資料の充実を図るため、学校貸出用パック資料等を追加購入するとともに、新たに雑誌スポンサー制度を設け、企業等からの寄付により、28種類の雑誌の受入れを開始した。
- 子育て情報コーナー、健康情報コーナー、ビジネス支援コーナー、ティーンズコーナーを活用し、季節や時事に対応したテーマ展示を開催すること等により、利用者等の利用機会の拡大と利便性の向上を図った。
- 各機関・団体等と連携した企画展等の充実を図った。
 - ・金融広報委員会と連携したライフプランセミナーの開催（2回）
 - ・近代美術館や埋蔵文化財センター等と連携した企画展示（6回）
 - ・県民や学校によるミニコンサートの開催
 - ・放送大学との連携セミナーの開催（3回）
 - ・大学図書館への資料提供 貸出冊数 331冊

○ 県立図書館のホームページにおいて図書館主催事業等の情報を提供するとともに生涯学習支援システムにおいても読書関連情報を提供したほか、生涯学習センター主催のセミナー関連資料の展示を県立図書館内で行うなど、相互に連携して啓発広報の充実に努めた。

○ 入館者数は、東日本大震災の発生により休館を余儀なくされた平成22年度に大きく減少したが、平成23年度は開館日数が前年に比べ12日間増加したことなどによりやや回復し、平成24年度は休館日が9日間多かったにもかかわらず、微増となった。

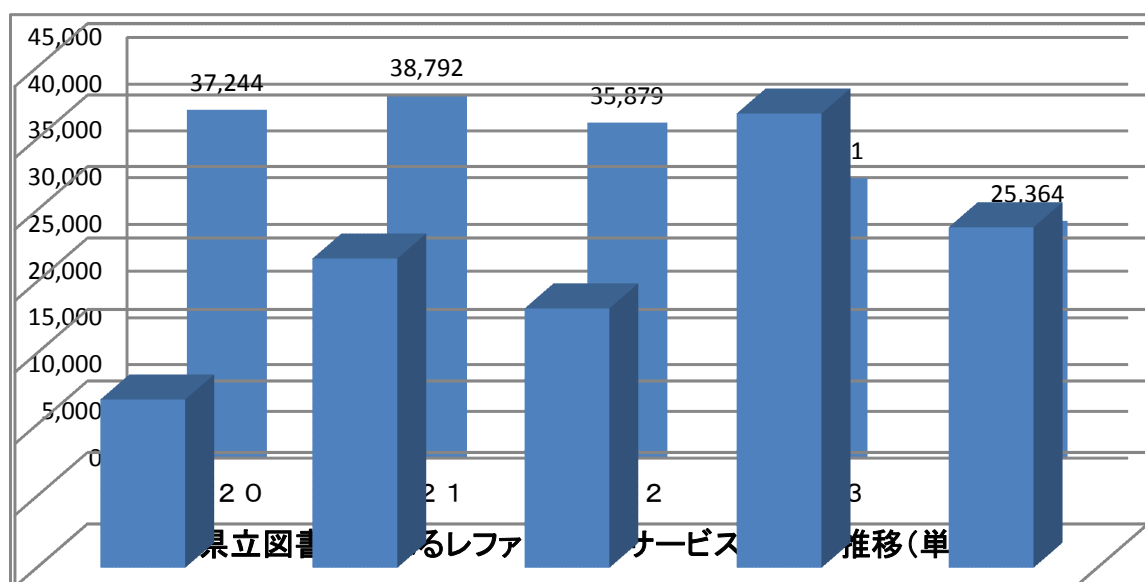
また、貸出冊数については、平成24年度は前年度比4%減となった。これは、システム更新のため、休館日が9日間多かったためと思われるが、今後は、テーマ展示や閲覧室の配架などを工夫し、利用者が興味を持てるようにすることで貸出冊数の増加を図る。





○ 県立図書館のレファレンス・サービス*については、平成24年度は、前年度比で15%減となった。システム更新のため、休館日が9日間多かったことと、カウンターでの資料の所蔵検索などの件数が減少しているためと思われる。今後は、レファレンス事例やパスファインダーを提供することにより、図書館で行っているレファレンス・サービスを広く周知し、件数の増加を図る必要がある。

※ 図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際、情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を、検索・提供・回答することによってこれを助ける業務。



② 市町村立図書館の取組と支援

- 市町村立図書館の取組を支援するため、県立図書館による市町村立図書館等への業務支援・情報提供のための巡回訪問を実施したほか、図書館でのコーナー設置や配架のしかたなど、図書館運営の実際について見直しを行う特別支援事業を行った。なお、鹿角市においては、新館準備のための研修会を開催した。

また、相互貸借サービスの充実に向けた取組として、県立図書館から市町村立図書館等に対し資料の貸出を行った。

・図書館等への巡回訪問	80館
・市町村立図書館等特別支援事業	7館
・市町村立図書館等への資料貸出	21, 216冊

③ 学校図書館の取組と支援

- 学校図書館の取組支援については、小・中学校において「司書教諭の手引き」の活用を促すとともに、小・中学校及び特別支援学校への学校訪問時に公立図書館等と連携した活動の促進について指導したほか、学校図書館が読書センター及び学習・情報センターとして機能するよう、授業において学校図書館と図書資料等を積極的に活用することについて「学校教育の指針」及び「本年度の重点」に示し、指導を強化した。

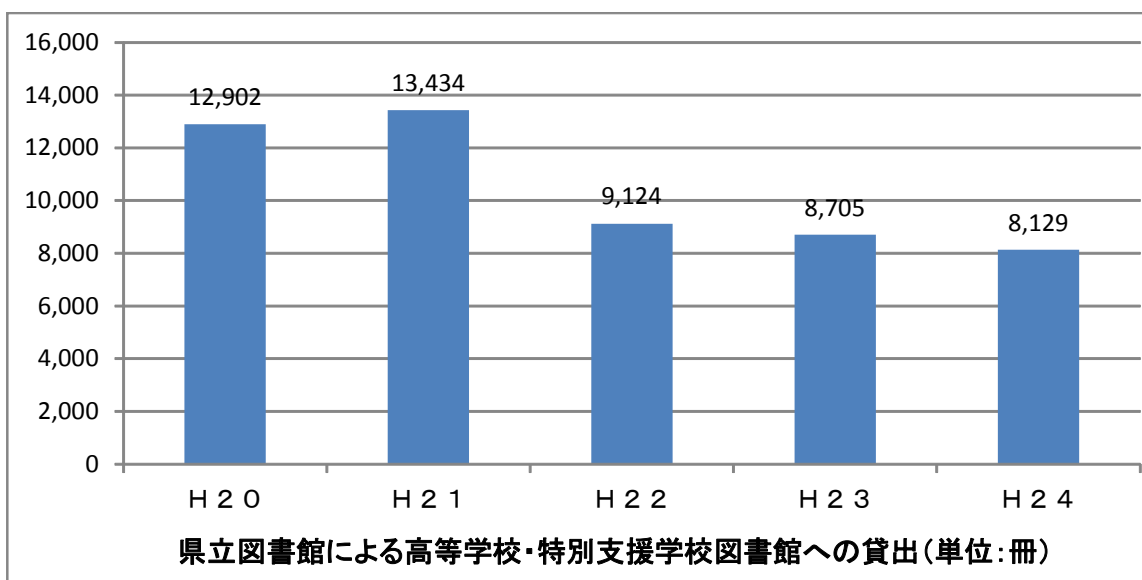
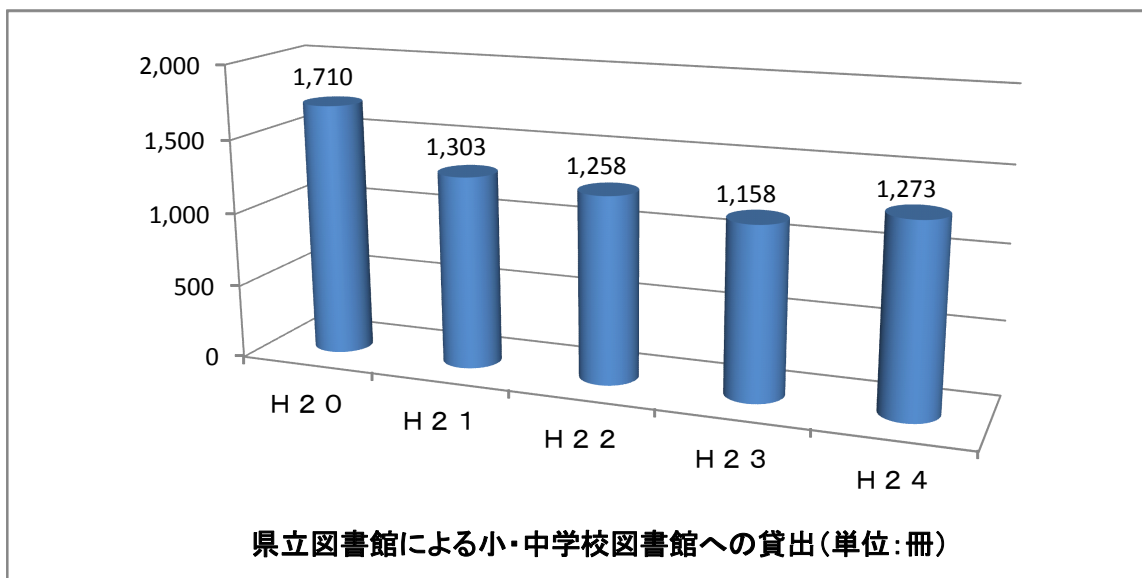
また、生徒による図書委員会活動の優れた実践事例を学校訪問や各種研修の際に紹介するなど、学校図書館活動に関する情報提供に努めた。

- 公立図書館と学校図書館の連携強化については、市町村立図書館等への巡回訪問時に助言や貸出パック資料の提供をしているほか、学校図書館を改善するビフォー・アフター研修を開催した。

・研修会開催回数	9回
----------	----

- 県立図書館から県立学校図書館への貸出については、パックによる貸出事業開始から6年となり、新規の図書購入が少なく、徐々に貸出が減少してきたことから、パックの追加購入により資料等の充実を図った。

また、パック配本を一律配本から希望制に移行したことにより利用が一部の学校に集中している事情もあるが、利用増に向けて新規購入以外にも手立てが必要な状況であり、パック内容の組み替えや資料活用に関する研修等により利用を呼びかけるなどの対策を進めていく。



④ 公立図書館の相互利用・連携の推進

○ 県立図書館と市町村立図書館等との図書の相互貸借の効率化を図るため、平成24年10月19日から、新システムによる相互貸借システムの運用を開始した。併せて、県内図書館資料横断検索システムについても新システムによる運用を開始し、図書情報へのアクセス環境の整備を進めた。

○ 読書活動推進に関する総合ホームページ「あきたブックネット」により、市町村立図書館などの関係機関のホームページとリンクし相互の連携を促進したほか、県内読書関連サークル等の活動状況や「家族で読書」推奨図書の設置図書館等の情報など、全県にわたる読書情報を提供した。

・あきたブックネットアクセス件数 9,620件(H24.4.1~25.3.31)

(4) 開放性

県民が本を選択する場としての公立図書館は、県民にとって利用しやすいものでなければならないことから、公立図書館等の運営に積極的に県民の視点を取り入れ、利用者の声に柔軟に対応していけるよう指導に努めた。

- 公立図書館等をはじめとする社会教育施設の積極的な開放や、公立図書館等が利用しやすい施設となるための分かりやすい案内表示やサイン等の整備について、県立図書館が市町村立図書館等へ巡回訪問した際に助言したほか、具体的な案内図の設置等の環境改善研修を実施した。
- 小中学校の図書館の地域への開放の現状について聞き取りをするとともに、実情に応じて助言をしたほか、高校の図書館についても、学校訪問や各種研修等の際に、学校図書館と地域社会の連携促進について指導をした。

第2 県民・民間団体・企業等による読書活動の推進

(1) ボランティア活動を担う人材養成

学校や各種施設における読み聞かせ活動やおはなし会の開催は県民に読書と接する貴重な機会を提供している。県民に読書を広めていくうえで、地域のボランティア等による活動は重要な役割を果たしているほか、図書館で活動するボランティアは、図書館における多様なサービスの一翼をも担っている。そのため、読書関連のサークル等ボランティア活動を担う人材を養成することを目的に次のような事業を行った。

- 「打って出る司書」による読書活動ボランティア研修会を開催するとともに、市町村立図書館等に対しボランティア育成の助言を行った。

- ・ ボランティア研修会開催回数 9回

- ボランティア養成講座を修了したボランティア2グループが、児童への読み聞かせや来館困難な高齢者等への宅配を行っている。

また、「秋田県読書フェスタ」開催時には、秋田大学の学生ボランティア4人が参加、活動した。

- ・ 読み聞かせ実施回数 48回

- ・ 宅配対象人数 14人

(2) ボランティア活動への支援

ボランティア団体の活動が活発になるよう、その自主性を尊重しながら、活動の基盤を促進するため、次のような事業を行った。

- 公立図書館等が民間団体の活動へ助言ができるよう、県立図書館が市町村立図書館等を巡回訪問した際に助言、情報提供を行っているほか、県立図書館においては、民間団体によるセミナー開催等を支援した。

- 「秋田ブックネット」に、伊藤忠記念財団の「子ども文庫助成事業」や国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」などの民間等の各種助成事業を掲載し、周知を図った。

- 県立図書館や県子ども読書支援センターにおいて、読み聞かせに使用する大型絵本や紙芝居、パネルシアターの貸出や、それに使用する舞台等の貸出を行うなど、ボランティア活動への支援を行った。

- ヤングアダルト層の読書意識の向上を図るため、県立図書館のティーンズコーナーを充実させるとともに、市町村立図書館に対し、同種コーナーの設置やサービス充実に向けた助言・提案を行った。

併せて、県立図書館において、高齢者のボランティア活動への助言を行った。

(3) 活動団体等のネットワークづくり

読書関連サークル等民間団体は、他の団体と交流・情報交換することで、活動が活性化したり、新たな視点での活動が展開されるため、県内の活動団体のネットワークの構築に向けて、次のような事業を行った。

- 「あきたブックネット」に、市町村立図書館との相互リンク設定し、「家族で読書」推奨図書の設置図書館など全県にわたる読書情報を提供した。

- 県内小・中学校における読み聞かせグループの活動状況を調査・取りまとめ、「あきたブックネット」に掲載し、活動団体等のネットワークの構築を図った。

(4) 企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携

読書活動は、企業にとっても事業展開のヒントを提供してくれるものであり、また、従業員の福利厚生として重要な役割を担うことが期待されている。書店、出版社、新聞社などの読書関連企業は、県民読書活動の推進にとって大きな役割を果たしていることから、こうした企業と連携して県民への啓発活動に努めた。

- 県立図書館閲覧室内のビジネス支援コーナーを充実させるとともに、ホームページにより情報を提供したほか、雑誌スポンサー企業の紹介コーナーの新設などにより、企業活動への支援を行った。

- 県民への読書啓発のため県と県教育委員会が共同で実施する「秋田県読書フェスタ」や読書推進講演会において、県書店商業組合との連携で書籍の展示販売を実施、民間団体と共同での読書啓発に努めた。

また、「読書フェスタ」の開催に当たっては、読書の楽しさを伝える活動を掲載した「秋田県読書フェスタマップ」を1,000枚配布するとともに、ホームページにも掲載し、フェスタ終了後には、フェスタの内容や参加者の様子等を「読書活動だより」により広報した。

- ・秋田県読書フェスタ参加者 県関係施設5館 市町村立図書館15館
書店13店舗 読書活動団体1団体

- 民間企業、特に小児科医院の協力を得て、「スギッチリサイクル文庫」の設置を進めた。さらに、プロバスケットボールチームの秋田ノーザン・ハピネッツの選手によるおすすめの一冊のパンフレット等を作成・提供することにより、同チームが社会貢献活動として行う読書推進啓発活動を支援した。

・「スギッチリサイクル文庫」設置箇所数（小児科医院等） 116箇所（再掲）



秋田ノーザンハピネッツによる読書推進啓発活動
選手おすすめの一冊のPR

秋田県書店商業組合による協力事業（絵本展示販売）



第3 読書をしやすい環境づくり

読書活動の公益的な意義や効果を明確にしながら、その活動を促進していくため、行政、教育機関、民間団体、企業等と役割を分担し、一体的に読書活動を推進する気運の醸成に努めた。

(1) 行政の取組

- 「市町村子ども読書活動推進計画」の策定に関する情報を収集し、策定に向けた助言を行った。
 - ・策定済 12市町村 策定作業中 6市町村

- 読書活動への関心を高める取組として、様々な媒体を活用した県内関連事業の情報提供を行い、広く浸透を図った。
 - ・あきたブックネット
あきたゆかりの著名人による「おすすめの一冊」の紹介
読書クイズの掲載
 - ・県環境浄化審議会で選定した「優良図書」の告示及び広報 など

- 「読書週間」の時期に合わせ、ノンフィクション作家の柳田邦男氏による「読むことは、生きること」と題した読書の効用等を内容とする講演会を開催し、読書に親しむ機運の醸成を図った。

- 「読書週間」等を通じた啓発活動の一環により、子どもの読書活動優秀実践校として3校、優秀実践図書館・団体として1館・1団体を選定、文部科学大臣表彰を受け、その活動内容を「読書活動だより」で紹介した。

○ 被表彰者

- ・優秀実践校
北秋田市立鷹巣西小学校、男鹿市立潟西中学校、県立養護学校天王みどり学園
- ・優秀実践図書館
大仙市立大曲図書館
- ・優秀実践団体
みんなの森（湯沢市）

- 県生涯学習センターが生涯学習講座として実施し、学習状況に応じて単位認定を行っている「美の国アクティブカレッジ」において文学関係の講座を実施したほか、「生涯学習センター蔵書一覧」を作成し、利用者への情報提供に努めた。
- 平成24年10月19日から、電子図書館システムを新システムにより運用開始し、電子書籍約2,000冊を提供している。

(2) 学校等での取組

- 子どもたちに読書の習慣をつけさせるためには学校での取組が欠かせないため、読書に親しむ時間の確保と充実、全校一斉の読書活動の継続的な実施、計画的で体系的な図書館の利用指導、学校の図書委員会活動の活性化等について指導主事の学校訪問や教育関係者の各種研修会等を通して指導するなど、取組の強化を図った。
 なお、指導の際は、指導計画の作成状況や時間の確保等の状況について聞き取り等により把握するとともに、優れた実践事例を紹介するなど、実情に応じた指導を行っている。
- 乳幼児については、早いうちから本に親しみをもつことができるよう、各幼稚園・保育所への訪問指導や各種研修会等を通して、読み聞かせの奨励や絵本の取り上げ方等の助言を行った。
 - ・新規採用者研修Ⅲ（対象93人）
 - ・保育技術協議会（対象101人）
 - ・乳幼児保育研修会（3地区：対象計264人）
- 県立図書館等のセカンドスクールの利用^{*}を促進し、児童生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をサポートした。
 なお、セカンドスクール用プログラムを改訂し充実を図っている。
^{*} 児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験や社会体験・共同生活体験等を行い、教科学習として授業時数にカウントできる学習形態。
 - ・セカンドスクール受入学校数 50校(446人)
- それぞれの年齢に適した図書を紹介する取組として、「秋田県読書フェスタ」において、「秋田BookBoat」実行委員会と連携して古本市を開催し、絵本、小説、ハウツー本等多彩な本を来場者に販売したほか、電子書籍体験会を開催して、電子書籍の利用をPRした。

(3) 家庭での取組

○ 日常的に家庭内での読書を可能とするためには、子どもからの読書習慣の定着を図っていくことが重要となることから、家族が同じ本を読み、感想を話し合うことで読書の楽しさを共有し、読書がより身近にある生活環境をつくっていく「家族で読書」運動を進めた。

- ・「家族で読書」推奨パンフレット作成・配布
- ・「はじめよう！家族で読書」おすすめ50選のホームページでの紹介
- ・「家族で読書」推奨図書50冊のうち、市町村立図書館等が保有していない図書を貸出



「家族で読書」推奨50冊の展示
(仙北市立田沢湖図書館)

○ 親と子どもが心のふれあいを深め、子どもの情感を大切に育むため、読み聞かせ絵本を紹介する「マザーズ・タッチ文庫」絵本52冊を選定し、毎週日曜日の秋田魁新報読書欄で紹介した。

(4) 職場での取組

○ 企業などの職場においても読書活動推進を奨励するため、小児科医院への「スギッチリサイクル文庫」の設置を進めた。

(5) 各民間団体等を通じた読書の普及・啓発

○ 読み聞かせやブックトーク*など、民間団体による「読書をしやすい環境づくり」を支援するため、読書ボランティアグループ等に対し、読み聞かせの際の参考図書として「家族で読書おすすめ50選」を配布し、活動支援を行った。

※ 子どもや成人の集団を対象にあらずじや著書紹介などを交えて、本への興味がわくような工夫を凝らしながら本の紹介をすること。



地域読書推進ボランティア等スキルアップ研修会

- 高齢者に対する読書の普及・啓発のため、「秋田LL大学園」への読書に関する講座を実施した。

第4 読書に関する県民運動の推進

県民全体で読書活動を推進していくためには、県民が気軽に読書活動の推進に参加できるメニューを掲げ、読書に関する県民運動を展開していくことが重要となることから、次のような事業を行い読書活動の推進のための機運の醸成を図った。

(1) 読書の楽しみ

○ 読書の意義や有用性について啓発し、県民の読書活動に関する意識を喚起するため、次の事業を実施した。

- ・読書啓発講演会の開催 3回(会場) 入場者 計 850人
平成24年10月20日 県児童会館
「読むことは、生きること」 柳田邦男 氏
平成24年12月1日 秋田市文化会館
「こまち号にのつてももんちゃんがやってきました」 とよたかずひこ 氏
平成25年2月2日 秋田市文化会館
「文学から映画の世界へ」 加藤正人 氏
- ・秋田県「読書フェスタ」の開催 参加者 県関係施設5館
市町村立図書館15館
書店13店舗 読書活動団体1団体
- ・「家族で読書」講演会の開催(県PTA連合会と共催)
平成24年10月28日 大仙市民会館
「本はいつもきみたちの味方です」 岡田淳 氏
- ・「家族で読書」推奨パンフレット作成・配布(再掲)
- ・「あきたブックネット」によるイベント情報の提供(再掲)



柳田邦男氏講演会
「読むことは、生きること」



加藤正人氏講演会
「文学から映画の世界へ」

(2) 図書資料の確保・充実

- 図書資料を確保・充実し、図書館等の個性化を図るため、「家族で読書」おすすめ50選の小冊子、「家族で読書」コーナーの三角柱ポップ等を市町村立図書館等に配布し、市町村立図書館の企画展示等の支援を行ったほか、秋田ノーザンハピネッツの選手がおすすめする本のセットを貸し出ししてハピネッツ企画展示(8カ所)を行うなど、県及び市町村立図書館の個性化を図る取組に支援を行った。

また、市町村立図書館等への巡回訪問時には、各地域の民間文庫活動活性化への助言、情報提供を行った。

- ・企画展開催回数 8回(館)

(3) いつでもどこでも読書

- 読み聞かせボランティア、家庭・地域と連携を図り、「いつでも、どこでも」読書に親しむ環境づくりをするため、次の事業を行った。

- ・読書ボランティアグループ等を対象にした読み聞かせのスキルアップ研修会の開催

6回(県北、県央、県南各2地区) 講話・実技指導等 秋田敏博氏
参加者 約240人

- ・秋田ノーザンハピネッツの試合会場に選手お薦めの本を展示、親子で本にふれあえるコーナーを設置 12試合(入場者数 31, 126人)
- ・小児科の待合室等に「スグッチリサイクル文庫」を設置(再掲)
- ・「打って出る司書」により、市町村立図書館等で開催する研修会への講師派遣、資料提供 研修会開催回数 28回



とよたかずひこ氏「親子おはなし会」



秋田ノーザンハピネッツ試合会場での
読書コーナー設置

IV 読書活動を推進する体制

読書活動について、学校教育や生涯学習推進の観点からだけでなく、余暇活動、ボランティア活動、高齢者の生き甲斐づくり、障害者福祉などの様々な観点から取り組むため、知事部局と教育庁が連携した体制を整えるとともに、県内の各市町村に対しても読書活動の推進のための取組の強化を働きかけていく必要があることから、次のような取組を行った。

(1) 「秋田県読書活動推進本部（仮称）」の設置

- 県の読書活動推進事業実施における連携を図るとともに、県全体の読書情報の共有化を図るため、秋田県読書活動推進連絡会を2回開催した。

(2) 県子ども読書支援センターにおける支援と活動の充実

- 各市町村への巡回訪問時に、市町村子ども読書支援センターの設置について助言したほか、子ども向けテーマパック資料の提供、学校向け資料の貸出を行った。
 - ・貸出冊数 1,919冊
- 「えほんのへや」で、週1回、子どもの読書に関する相談を受け付けた。
 - ・相談回数 77回
- 子どもの読書推進に携わるボランティア等の技量向上のため、読み聞かせ、ブックトーク研修会等へ、センター員、支援員を派遣した。
 - ・研修会開催回数 6回
- 子どもが本と出会う場の環境整備のため、児童会館図書室へ週2回、センター員を派遣し、図書室整備と活用を図ったほか、センター支援員のおすすめ本リストを作成し、提供した。

(3) 読書に関する調査の実施

- 県民意識調査において、一日30分以上本を読む人の割合を調査。
- 全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査により、「読書への関心」「1か月あたりの読書冊数」等を調査。
- 高校2年生を対象に、「読書活動に関する調査」を実施。

(4) 読書活動推進関係者との意見交換会の開催

- 「読書のつどい」や講演会等の開催時に、アンケート調査を実施、取りまとめをするとともに、その結果を学校等関係機関に提供した。
- 県庁内各課のほか、秋田県私立幼稚園PTA連合会、秋田県学校図書館協議会、

秋田県書店商業組合、市町村教育委員会、市町村図書館、県立高等学校の代表による「秋田県子ども読書活動推進会議」を6月・10月に開催し、「生涯にわたる読書の姿」について協議して小冊子にまとめた。

- ・各市町村教育委員会、市町村図書館及び公民館図書室に配付

(5) 「読書活動推進県民会議（仮称）」の創設

- 秋田県読書活動推進連絡会における検討課題としている。

(6) 「子どもの読書活動推進計画」の策定への支援

- 「市町村子ども読書活動推進計画」の策定状況について、電話による聞き取り調査（のべ80回）、調査票による一斉調査（2回）、市町村訪問による情報収集などを行った。

また、市町村の計画策定状況や策定後の読書活動について適宜広報するとともに、それぞれの地域の実情に応じた個別支援を行った。

- ・ 策定済 12市町村 策定作業中 6市町村

V 「達成すべき目標数値」平成24年度実績

項 目	平成27年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
県立図書館のホームページのアクセス件数	300,000回	237,244回	227,572回	194,631回	216,763回	
県立図書館のレファレンス・サービスの件数	44,000件	38,792件	35,879件	29,931件	25,364件	
県立図書館の年間貸出冊数	450,000冊	413,271冊	406,287冊	433,561冊	417,651冊	
県立図書館の高等学校・特別支援学校図書館への貸出冊数	20,000冊	13,434冊	9,124冊	8,705冊	8,129冊	
県立図書館のセカンドスクールの利用学校数	46校	38校	48校	39校	50校	
県人口1人あたりの市町村図書館貸出冊数	2.3冊	2.03冊	2.08冊	2.07冊	集計中	
	(H26年度目標)	(H20年度調査)	(H22年度調査)			
1) 2) 学校図書館図書標準を達成している学校の割合	小学校	50.0%	42.8%	51.0%	調査なし	49.3%
	中学校	50.0%	32.8%	36.6%	調査なし	37.8%
2) 学校図書館を地域に開放している学校の割合	小学校	10.0%	6.9%	8.0%	調査なし	※1
	中学校	10.0%	3.8%	3.1%	調査なし	※1
	高等学校	10.0%	6.3%	6.8%	6.8%	6.8%
2) 読み聞かせボランティア等と連携して、読み聞かせや図書館の運営を実施している学校の割合	小学校	80.0%	76.7%	78.0%	調査なし	83.8%
	中学校	20.0%	12.2%	13.2%	調査なし	18.8%
	高等学校	10.0%	5.4%	5.4%	調査なし	9.4%
	特別支援学校	100.0%	80.0%	82.0%	85.0%	85.0%
2) 全校で取り組む読書活動を実施している学校の割合	小学校	100.0%	100.0%	100.0%	調査なし	99.1%
	中学校	100.0%	99.3%	98.4%	調査なし	99.1%
	高等学校	75.0%	65.1%	59.3%	59.3%	52.5%
	特別支援学校	100.0%	75.0%	73.0%	77.0%	81.0%
子ども読書の日や子ども読書週間における関連事業の実施件数	25市町村	14市町村	20市町村	23市町村	24市町村	
	75件	37件	84件	124件	168件	
学校図書館を活用した授業を、1学期に数回程度以上計画的に行っている学校の割合	小学校	80.0%	68.1%	66.3%	79.2%	81.3%
	中学校	60.0%	49.3%	43.5%	54.4%	61.7%
読書活動の調査で、「読書が好きだ」の設問に「強く思う」「そう思う」を回答した児童生徒の割合	小学校	80.0%	78.6%	80.1%	※2	79.6%
	中学校	80.0%	76.1%	76.5%	※2	79.0%
	高等学校	80.0%	55.2%	59.5%	59.5%	61.1%
読書活動に関する調査で、「1月に読んだ本の冊数」の設問で最も多い回答	小学校	11~12冊	3~4冊	3~4冊	3~4冊	3~4冊
	中学校	5~6冊	1~2冊	1~2冊	1~2冊	1~2冊
	高等学校	1~2冊	読まない冊	読まない冊	読まない冊	読まない冊
3) 県民意識調査で、県民が本や雑誌、新聞等を1日平均30分以上読む人の割合	(H27年度目標)	(H22年度調査)	(H23年度調査)	(H24年度調査)	(H25年度調査)	
	70.0%	60.3%	58.4%	55.3%	6月調査、9月公表予定	
子ども読書活動推進計画を策定した市町村数	25市町村	3市町村	5市町村	6市町村	12市町村	
子ども読書支援センターを設置した市町村数	25市町村	3市町村	3市町村	5市町村	5市町村	

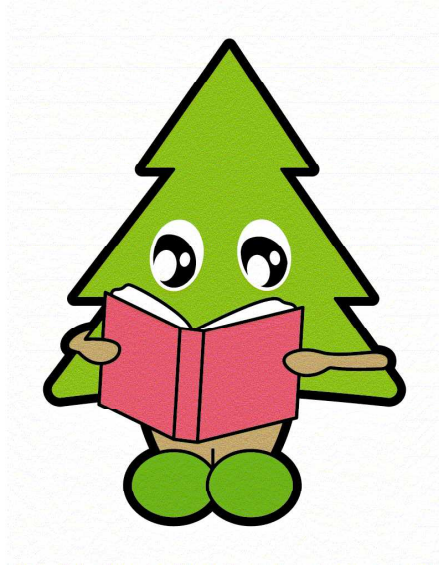
1) 標準を達成するに当たっては、古い図書資料の除籍を行うことも十分に配慮する。

2) この調査は、2年に1度しか行われていないため、年度が1年ずれ、21年度の欄がH20年度調査数値、22年度の欄が22年度調査数値、27年度目標は26年度目標となる。(特別支援教育課を除く。)

3) この調査は、平成22年度からの実施。

※1：24年度からこの項目の調査を実施しないこととなった。(文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」)

※2：平成23年度の「全国学力・学習状況調査(文部科学省調査)」が実施されなかったため、数値は未記入。



秋田県マスコット スギッチ